

ニホンザルの被害対策

地域で防げるサルの被害

ニホンザルの生態と特徴

生態を知って被害を防ごう

■ 身体能力・行動の特徴

① 記憶力が高い

エサ場や安全な場所をよく覚えます。
逆に怖い場所や人も覚えるので、追い払いの効果が出ます。

② 運動能力が高い

数ミリの突起やへこみがあれば登れるので、
通常フェンスやネットは簡単に越えることができます。

③ 視力が良い

エサは目で探します。視力は人並みです。光や反射物など視覚を利用した被害対策は、
慣れもあり効果が少なくなります。

④ いわゆる「ボスザル」はいません

群れの行動は成獣のメスが決めています。
そのため、このメスが“好きな場所”には、群れがよく出沒することになります。

⑤ 群れで動くが、行動はバラバラ

一般に言われるように、他のサルのマネをして学習したり、共同でエサをとったり、
侵入するといった能力はありません。

■ 生活や繁殖の特徴

① 群れで日中に移動

20~100頭の群れで「エサ場」を探して移動しています。移動速度は
1~2時間で1km程度。移動範囲は、一般的に頭数が多い群れほど広くなります。

② 寿命は 20歳程度

野生では20歳程度と言われますが、栄養状態が良いと長生きします。

③ 最初の出産は 6~7歳

3年に1度くらいのペースで出産します。しかし、栄養状態が良いと出産ペースは
早くなり、毎年出産することもあり、群れの頭数が増える原因となります。

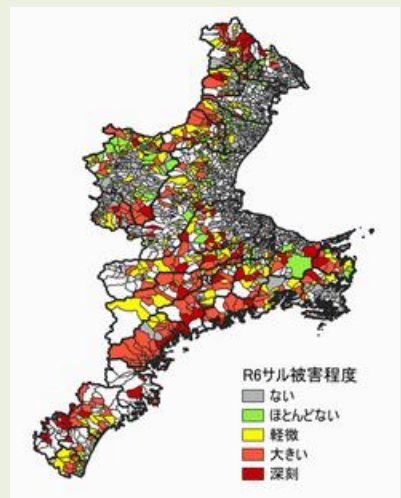
ニホンザルの農作物被害の特徴

群れで移動するため、短時間でも
大きな被害が出ます。

また、一口かじっただけで、
次の野菜・・・という採食行動のため、
被害が更に大きくなります。



三重県内のサルによる被害発生集落は、
およそ600集落で、そのうち半分は
被害が「大きい」「甚大」と感じています。



(R6集落代表者アンケートより)



三重県内には、行動域が特定された群れで82群、特定できていない群れも含めれば、115の群れが存在すると推定され、海岸部の都市部を除いてほぼ連続して全域に群れが分布しています。

頭数調査の結果、三重県内のサル群の頭数は、10頭から多い群では200頭となっています。

サルは群れごとに性格が異なるため、加害レベルを判定して、そのレベルに応じた効果的な対策をとることが重要です。

※左図のサル群遊動域図は、三重県環境森林部、NPOサルどコネット、市町及び三重県農業研究所の調査をもとに、描画したものです。

サルの群れは行動域が変化したり、数が増減することがあるため、定期的な更新調査が必要です。

効果的なサルの被害対策

① 無意識の「エサ」をなくす！



収穫していない果実や、放任された果実、畑に捨てられた果実や収穫時に落ちた豆など、集落の中には人間が気にしていない「エサ」がたくさんあります。

② 隠れ場所や逃げ場を減らす！



サルが逃げられる高木や茂った藪などは、サルが「安心」できる場所になります。農地周辺の草刈や竹やぶの管理、放任果樹の伐採などが効果的です。

まず、取り組むべきサル対策の4箇条

この4つが出来てから、必要に応じて、群れサイズを縮小する捕獲を実施する



サルにエサを与えないためには、被害の出ている畑をできる限り囲うことが大事です。また、サルは運動能力が高いことから、単に囲うだけでなく、様々な工夫が必要です。

※後項に詳しく記載

③ 囲えるモノは正しく囲う！



サルに「この集落は怖いところだ」と覚えさせるためには、集落ぐるみによる徹底的な追い払いが重要です。

※後項に詳しく記載

④ 集落ぐるみで追い払い！



隠れ場所や逃げ場を減らす



高くなった放任果樹の上部の幹や枝を切るだけでも、「安全なエサ」を減らす効果があります。



サルの泊まり場になっていた高木を伐採することで、集落への出没が減少しました。

正しく囲う

サルに侵入されやすい畑は、出来る限り囲いましょう。

サルの場合、囲んだだけでは効果は充分ではありません。追い払いと組み合わせることで効果が出ます。

また、運動能力や記憶力の優れているサルから農作物を守るためには、柵にもひと工夫が必要です。

多獣種に対応した電気柵「おじろ用心棒」

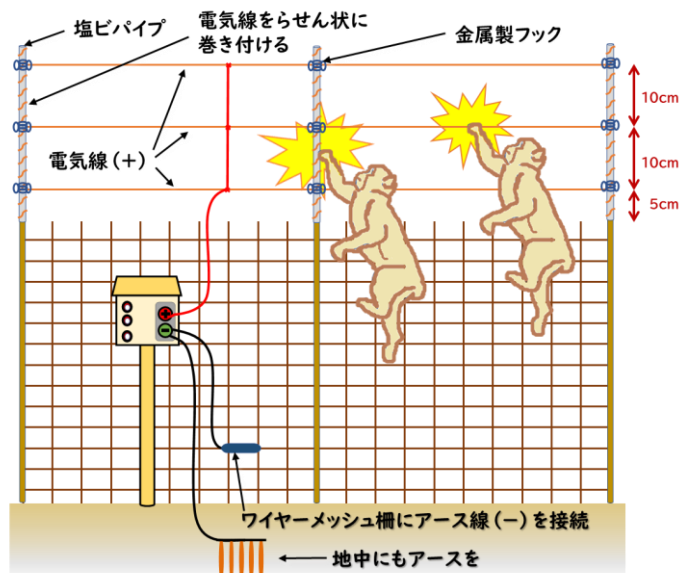


「おじろ用心棒」という多獣種侵入防止柵は、サルの侵入防止効果が高く、設置コストも比較的安価で、農家自らが設置可能であり、被害軽減に大きな効果をあげています。

※「おじろ用心棒」のパンフレット参照

イノシシやシカの侵入防止柵として設置されたワイヤーメッシュ柵も、ひと工夫すればサルの侵入防止に効果があります。

ワイヤーメッシュ柵の支柱に塩ビパイプをかぶせ、それにアルミテープを巻き、電気を流すことで、サルがどこを掴んでも感電する柵になります。



効果ができる集落ぐるみの「組織的な」追いかい

集落を1つの農地と意識して

- ① 集落の誰もが
- ② サルが侵入した場所に集まり複数人で
- ③ サルが集落から出るまで
- ④ 花火やパチンコなど複数の威嚇資材を使って



追いかう！



伊賀市下阿波地区などでは、地域ぐるみの追いかいによりサル被害を解消しました。



大紀町金輪地区



伊賀市下阿波地区



鳥獣駆逐用煙火

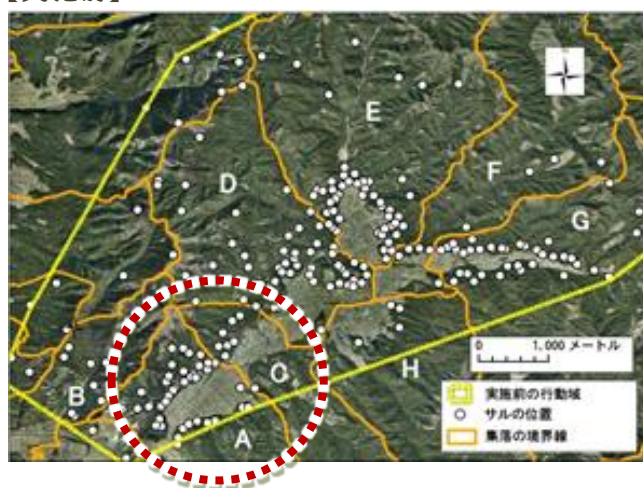
集落ぐるみの追いかいでサル被害を解消した、伊賀市下阿波地区などの追いかい方法

- ① サルを見たら集落の住民に知らせる
- ② その場所にみんなで集まる（女性も参加する）
- ③ 群れが集落から出るまで追いかいを続ける

「見たら誰もが必ず追いかうこと」

集落ぐるみで追いかいをした地域のサルの行動域の変化

【実施前】



【実施後】



集落ぐるみの追いかいを実施した集落Aでは、以前は家屋に侵入することもあったサルが、人を見たら逃げるようになり、出没や接近そのものが減少したことで、被害が軽減しています。



作成：三重県農業研究所 TEL 0598(42)6356

発行・問い合わせ先：三重県農林水産部獣害対策課 TEL 059(224)2017

(当資料はHPからダウンロードできます <https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/000051663.htm>)